

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-142	23-087	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Pharmacotherapy for Alcohol Use Disorder: A Systematic Review and Meta-Analysis アルコール使用障害に対する薬物療法：系統的レビューおよびメタアナリシス		
執筆者		
McPheeters M, O'Connor EA, Riley S, Kennedy SM, Voisin C, Kuznacic K, Coffey CP, Edlund MD, Bobashev G, Jonas DE.		
掲載誌		
JAMA. 2023 Nov 7;330(17):1653-1665. doi: 10.1001/jama.2023.19761.		
キーワード		PMID
アルコール使用障害、薬物療法、メタアナリシス、アカンプロサート、ナルトレキソン		37934220
要旨		
<p>目的：アルコール使用障害に対する治療法の有効性を比較検討する。</p> <p>方法：データはPubMed、Cochrane Library、Cochrane Central Trials Registry、PsycINFO、CINAHL、EMBASE から収集し、2012年11月から2022年9月に発表されたランダム化臨床試験（RCT）を対象とした。12週間以上の治療期間を持つRCTが含まれ、二重盲検試験が主に評価された。データ抽出とバイアスリスクの評価は二重レビューアーによって行われ、メタアナリシスはランダム効果モデルを使用した。</p> <p>結果：118の臨床試験から20,976人のデータが分析された。アカンプロサートとナルトレキソンは、アルコール使用障害に対し有意な改善を示した。アカンプロサートは、飲酒再発を防ぐための治療必要人数（NNT）が11（95%信頼区間[CI], 1-32）であり、ナルトレキソンはNNTが18（95% CI, 4-32）であった。経口ナルトレキソンは重度の飲酒再発率が低く、NNTは11人（95%CI, 5-41）であった。注射用ナルトレキソンは、30日間の治療期間中の飲酒日数が少なかった（加重平均差 -4.99日、95%CI -9.49日から -0.49日）。副作用として、アカンプロサートでは下痢、ナルトレキソンは吐き気や嘔吐が多く報告された。</p> <p>結論：アカンプロサートと経口ナルトレキソンがAUDの第一選択薬として有効であることを支持している。これらの薬物は、心理社会的介入と併せて飲酒の減少に寄与することが示された。一方でジスルフィラムの効果は限定的であり、他のオフラベル薬はさらなる研究が必要である。</p>		